

開催地名	神奈川県 開成町
開催日時	令和7年1月25日(土)13:00~14:30
開催場所	開成町民センター
語り部	仲條 富夫(千葉県旭市)
参加者	開成町町民及び開成町地域防災リーダー 79名
開催経緯	平時より町防災訓練や自主防災会単位での防災訓練を実施していますが、訓練に参加する方は自治会関係者等であり、若い世代の参加が少なく、町内の自主防災組織の重要性と災害に対する意識が低下している。
内容	<p>■ はじめに 講演者の仲條富夫氏は、自身の津波被害の経験をもとに、防災の重要性を伝える活動を行っている。千葉県の九十九里地域で育ち、海拔の低い地域に住んでいたことで、過去の津波被害の影響を直接受けてきた。特に東日本大震災では、自宅が津波の直撃を受け、避難の重要性を痛感した。 本講演では、災害時にどのような行動を取るべきか、また防災意識をどのように高めるかについて語られた。「自助・共助・公助」の役割の中でも、特に地域の連携が生存率を大きく左右することを強調し、日頃からの備えが命を守る鍵となると訴えた。</p> <p>■ あの日のこと 仲條氏は、東日本大震災発生時の状況を詳細に振り返り、津波の恐ろしさと教訓を語った。震災発生当時、自宅は海岸から50メートルほどの距離にあり、津波の襲来とともに一瞬で水に飲み込まれた。家屋には約2メートル以上の浸水が発生し、仲條氏は寝たきりの母と妹とともに、避難することもできず取り残された。「まさか自分の地域に津波が来るとは思わなかった」という油断が、避難の遅れにつながったと振り返った。 過去の津波の記憶として、1960年のチリ地震津波の経験があった。当時も津波は発生したが、被害は比較的小さく、「津波は来るものの、大きな被害にはならない」という認識が根付いていた。そのため、震災当時も深刻な危機感を持たず、適切な避難行動が取れなかった。 震災時、介護ベッドに寝たきりの母と妹が一緒にいたため、すぐに逃げるができなかった。「大丈夫だろう」という油断が致命的な状況を生み、津波は一気に押し寄せてきた。家屋は瞬時に倒壊し、家具や瓦礫が流される中、命を守るために必死で耐えた。この経験を通じ、津波の脅威を軽視することの危険性を痛感したと語った。</p> <p>■ その後のこと 震災後の避難所生活や復興の過程で、多くの課題が浮き彫りになった。避難所では物資の不足が深刻で、特に水や食料が足りなかった。最初の数日間は支援が届かず、住民同士で食料を分け合う状況が続いた。また、避難所の運営には地域住民の協力が不可欠であり、住民が役割分担をしながら環境整備を進めた。 一方で、ペットを連れて避難した住民が避難所への入所を断られるなどの問題も発生した。これにより、ペット同行避難の必要性が指摘され、今後の避難所運営において対応策を検討する必要があることが明らかになった。 支援物資の管理にも課題があり、多くのボランティアが駆け付けたものの、物資の分配が適切に行われず、一部の人に物資が偏るケースが見られた。公平に分配するためのルールや、受け入れ体制の整備が求められた。 住宅の再建にも時間がかかり、多くの住民が仮設住宅での生活を余儀なくされた。仮設住宅の建設については、「治安が悪化するのではないか」という懸念もあったが、生活再建のための必要な措置として受け入れられた。住民同士の協力が、復興のスピードを大きく左右することを実感したと仲條氏は語った。</p> <p>■ まとめ 仲條氏は、災害時に備えて日頃から準備をすることの重要性を強調した。特に、以下の点が命を守るために不可欠であると述べた。 まず、迅速な避難行動が生死を分ける。「まだ大丈夫」という意識が命を危険にさらすことにな</p>

りかねないため、ハザードマップを確認し、避難経路を事前に決めておくことが重要である。家庭での防災対策も欠かせない。食料・水・簡易トイレなどの備蓄を行い、最低3日間は自力で生活できる準備をしておく必要がある。また、家具の固定や避難用リュックの準備を習慣化し、災害が発生した際にすぐに行動できるようにしておくことが求められる。

地域の防災活動への参加も重要である。自治会や防災訓練に積極的に参加し、いざという時に地域全体で協力できる体制を整えることが求められる。特に、高齢者や障がい者の支援体制を地域で話し合い、支援の仕組みを作ることが必要である。

避難所運営の改善も、今後の課題の一つである。避難所ではお互いに助け合い、役割を持つことで秩序を保つことができる。プライバシーを確保するための間仕切りの設置や、ペット同伴避難の受け入れ体制の整備が求められる。

最後に、仲條氏は「災害はいつ起こるかわからないが、備えることはできる。日頃からの準備と地域の協力が、命を守る鍵になる」と述べ、講演を締めくくった。



開催地より

津波災害についてお話をいただき、早めの避難の重要性を実感しました。当町は津波の被害はないと思われるが、地震、富士山噴火、風水害などの災害は十分に考えられることから町民に対して早めの避難行動の重要性について、周知を行っていきたいと思う。